

補助事業概要の広報資料

補助事業番号 23-4-019

補助事業名 平成 23 年度（復興支援）被災地域の記録、調査活動 補助事業

補助事業者名 （学）田村学園 多摩大学

1. 補助事業の概要

補助事業実施（多摩大学）

（1）事業の目的

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災は、日本全土に大きな被害を与えるとともに、日本の防災やまちづくりのあり方に大きな転換を求めている。特に今後の復興に関する課題は、既存の理論や方法では対応できないことも多く、その解決方法は、未だ手探りの状態でもある。

そのなかで、東北の「道の駅」は、震災直後に被災者救援の拠点となっただけでなく、自衛隊・消防等の基地、物資の集積配送場所、炊き出しや復興イベントの開催場所など復旧や復興支援の拠点としても機能したと言われている。「道の駅」が震災で果たした役割と今後の可能性を見つめること、「道の駅」という拠点を軸に、広域的な救援、復旧・復興プロセスを明らかにすることは、震災以後の日本の防災やまちづくりのあり方を考える上での大きなヒントになる。

「道の駅」が果たした救援、復旧・復興支援機能の実態を明らかにし、道の駅が今後果たしうる平常時と災害時の両方に適応した地域の多機能型連携拠点としての役割を明らかにし、提案する。

（2）実施内容

①現地プレ調査

調査目的：現地本調査における調査内容の精査

調査期間：2011 年 8 月 16 日（火）・17 日（水）

調査対象：宮城県内の 3 駅

調査方法：インタビュー調査

②現地本調査

調査目的：被災 3 県における道の駅の事例研究を通し、震災時における救援・復旧・復興支援機能の実態を明らかにするとともに、今後道の駅が果たしうる役割について考察する。

調査期間：2011 年 9 月 5 日（月）～9 日（金）

調査対象：計 27 駅・3 地方自治体

調査方法：インタビュー調査および観察調査

③定量調査

調査目的：東北 6 県の全道の駅に対する定量調査によって、東北全域における道の駅の被災状況、および震災時に果たした救援・復旧・復興支援機能の実態と傾向を把握する。

調査期間：2011 年 11 月 29 日（火）～12 月 21 日（水）

調査対象：東北6県（青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県）の全道の駅139駅、およびその設置者の地方自治体

調査方法：郵送による質問紙調査



調査の様子



調査報告

④報告書作成

『東北「道の駅」の震災対応の実態と新しい役割』 500部印刷

⑤報告会開催

『東北「道の駅」の震災対応の実態と新しい役割』

日時：2012年2月14日（火）13時～18時

場所：せんだいメディアテーク

内容：・基調講演 多摩大学学長 寺島実郎

テーマ『東北から考える日本創生への道～「道」という視点の重要性～』

・調査報告

・パネルディスカッション

テーマ『道の駅に求められる新しい地域連携機能とは』



基調講演：多摩大学学長 寺島実郎



パネルディスカッション



報告会 パネル



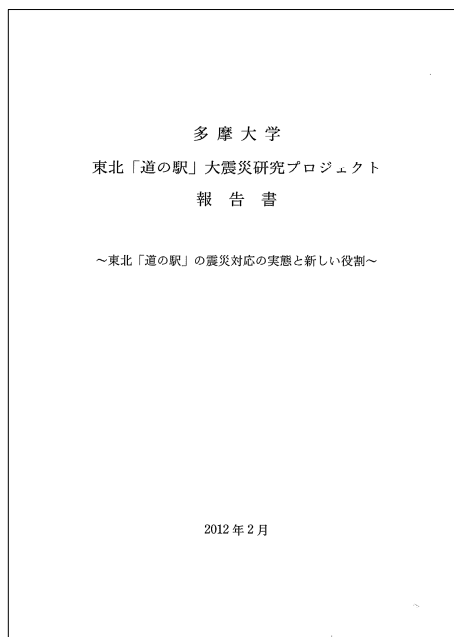
報告会会場

2. 予想される事業実施効果

本調査研究が行われたことで、震災時の東北「道の駅」の対応の実態が明らかになると同時に、今後の「道の駅」の新しい役割に関する提言は、報告書および報告会の反応に鑑みると、今後の道路行政、道の駅経営についての示唆を与えたといえる。これをきっかけに、今後、防災や地域活性化に関する具体的なプロジェクトの立ち上げや「道の駅」と民間、行政、駅どうしの連携が進むと期待している。

3. 本事業により作成した印刷物等

多摩大学 東北「道の駅」大震災研究プロジェクト報告書
『東北「道の駅」の震災対応の実態と新しい役割』



4. 事業内容についてのお問い合わせ先

団体名： (学) 田村学園 多摩大学 (タムラガクエン タマダイガク)

住所： 206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1

代表者：理事長 田村邦彦 (タムラ クニヒコ)

担当部署：多摩大学地域活性化マネジメントセンター

(タマダイガクチイキカッセイカマネジメントセンター)

担当者名：准教授 松本祐一 (マツモト ユウイチ)

電話番号：042-337-1111 (代表)

F A X : 042-337-7101

e-mail : matsumoto@tama.ac.jp

URL : <http://www.tama.ac.jp/>